国道１号島田バイパス大代インターチェンジの名称変更を求める意見書

本市は、静岡県中部に位置し、大井川の両岸に広がる面積約 315.7ｋ㎡の市域を有している。本市の中央部を新東名高速道路が東西に通過するほか、その南側には国道１号、東海道本線・東海道新幹線が通るなど、首都圏と中京圏をつなぐ交通の要衝となっている。このうち、市域を東西に横断する国道１号では、４車線化に向けた事業が進められているほか、御前崎港と国道１号菊川インターチェンジを結ぶ「金谷御前崎連絡道路」の整備も進められている。

一方、南北に目を向けると大井川鐵道大井川本線が通り、奥大井の玄関口として観光客をはじめ多くの来訪者を迎えている。令和２年 11 月に新東名高速道路島田金谷インターチェンジ及び大井川鐵道大井川本線門出駅近傍に誕生した大井川流域観光の交流拠点「KADODE OOIGAWA」は、地域内外の人が集まる賑わい交流拠点を形成している。一般道路における当該交流拠点へのアクセスは、国道１号島田バイパス大代インターチェンジが近傍のインターチェンジとなっている。

高速道路や一般道路などのインターチェンジは一般的に当該地の地名とするものと理解している。しかしながら、大代インターチェンジは所在地が島地区であり、大代地区とは距離的にかなりの乖離があるにもかかわらず、所在地とかけ離れた大代インターチェンジの名称がつけられている。

このことは、当該インターチェンジが所在する金谷地区住民にとって長い年月の間、違和感を抱くものとなっており、住民間では名称がつけられた当初から折に触れて、改善できないものかと意見交換がなされてきたことに加え、近い将来、大代インターチェンジの改修が完了する機会を迎え、当該インターチェンジの名称変更は最後の機会と金谷地区住民は捉えている。

国は、こうした金谷地区住民の長年の悲願である大代インターチェンジの名称変更について、地域住民の意見を聴取する機会を設けると共に、当該地区の実情を鑑み、早期に実現するよう強く求める。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和５年２月27日

静岡県島田市議会

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣　　様
内閣官房長官
国土交通大臣